

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
430012	X-13-B-2-430012						
授業科目	担当教員						
人間工学2	上西園 武良	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × × × 専門 専門	× × × × × 選択 選択	× × × × × 2年 2年

#### 授業目的

人間工学2では、人間の心身機能に適合した機器・環境を設計するためには、どのような開発プロセスで行うべきかを具体的な事例で修得する。講義の基礎知識として前提としているのは、人間情報システムで学習した「人間の特性」および人間工学1で学習した「人間の心身機能に適合させるための設計手法」である。

【対応するディプロマポリシー】仕事の仕組みをシステム的に考え、データを重視した論理的な判断ができること。

#### 各回の授業内容

第1回	【授】 人間中心設計 【前・後】 事前：アップしてある前年度の講義資料全体を通読（3H）、事後：人間工学1の講義資料を復習（3H）	第9回	【授】 オフィスチェア・オフィスの事例（学部講師） 【前・後】 事後：オフィスチェア・オフィスの事例の復習（4H）
第2回	【授】 家庭用ミシンの事例(1)商品企画① 【前・後】 事前：前年度第2回講義資料を熟読（2H）、事後：KJ法、ブレーンストーミング、タスク分析を復習（3H）	第10回	【授】 睡眠の基礎知識(3) 【前・後】 事前：前年度第10回講義資料を熟読（2H）、事後：レム睡眠とノンレム睡眠の違いを復習（4H）
第3回	【授】 家庭用ミシンの事例(2)商品企画② 【前・後】 事前：前年度第3回講義資料を熟読（2H）、事後：身近な機器で3Pタスク分析を実施する（2H）	第11回	【授】 枕の事例(1)商品企画 【前・後】 事前：前年度第11回講義資料を熟読（2H）、事後：枕の役割を復習しておく
第4回	【授】 家庭用ミシンの事例(3)設計・評価① 【前・後】 事前：前年度第4回講義資料を熟読（2H）、事後：携帯電話についてパフォーマンスシートを作成しておく（2H）	第12回	【授】 枕の事例(2)設計・評価① 【前・後】 事前：前年度第12回講義資料を熟読（2H）、事後：相関係数を復習しておく（2H）
第5回	【授】 家庭用ミシンの事例(4)設計・評価② 【前・後】 事前：人間工学1のt検定を復習（2H）、事後：エクセル利用（データ分析機能）のt検定を復習（2H）	第13回	【授】 枕の事例(3)設計・評価② 【前・後】 事前：前年度第13回講義資料を熟読（2H）、事後：微少角の三角関数を復習しておく（2H）
第6回	【授】 温水洗浄便座の事例 人間工学における測定法 【前・後】 事前：前年度第6回講義資料を熟読（2H）、事後：温水洗浄便座の歴史を復習しておく（2H）	第14回	【授】 アンケート調査方法 【前・後】 事前：前年度第14回講義資料を熟読（2H）、事後：アンケート作成方法を復習しておく（2H）
第7回	【授】 睡眠の基礎知識(1) 【前・後】 事前：前年度第6回講義資料を熟読、過去1週間の睡眠時間を調査する（4H）	第15回	【授】 定期試験 【前・後】 (特になし)
第8回	【授】 睡眠の基礎知識(2) 【前・後】 事前：「人間情報システム」の脳の測定法を復習（2H）、事後：印象に残っている「夢」を書き出す（2H）	第16回	

#### 成績評価方法

- 6回のレポート（各5点、計30点）と期末試験（70点）の合計（100点）で評価する。
- 授業の2/3以上に出席していることを期末試験の受験資格とする。
- 期末試験は「電卓（通信機能なし）」以外は持ち込み不可
- フィードバック：不備のあるレポートは再提出してもらいます

#### 教科書・参考書

#### 特になし

#### 受講に当たっての留意事項

- 人間工学、人間工学1または人間情報工学1の単位を取得済であることが受講（履修登録）の条件である。
- 毎回、統計的なデータ処理計算を行うので平方根（√）計算機能のある電卓を持参すること。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	大学赴任前の企業にて、人間工学を活用した製品企画・開発（家庭用の機器）に約10年間従事していた。講義内容の大半は、この実務経験を活用した、実践的な内容となっている。	×

#### 学習到達目標

人間の心身機能に適合した機器を生み出すためにどのような開発プロセスで行うかを説明でき、開発計画を策定できる。

JABEE

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習